

---

# 恋鈴明

蓮華草

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

恋鈴明

### 【Zマーク】

Z2318F

### 【作者名】

蓮華草

### 【あらすじ】

「ここは第一香雅学校・・・」で高校生の鈴と親友の明の恋が始まる・・・。

## 一話 学校

### 登場人物

主人公 綾瀬 鈴

年 17くらい

鈴は学校で一番の人気者。

友達いっぽいで、

とても男子から好かれてる。

が、手は出せない（明の兄がいるから）

友達 狩野 明

年 18才（早生まれ）

鈴の良き相談相手。

明も男子から好かれるが、

鈴よりは少ない・・かも

だが男子に恐れられてる兄がいるから

まず告白はできない。

友達の兄 狩野 海

年 18（明より一ヶ月先に生まれた）

明の兄貴。

みんなに海様と言われる。

怪力で明か明の親友を泣かせると、

地獄に送るといわれるらしい・・・

実際に泣かせた奴はかならず病院に入院！

えっと登場人物紹介はこれくらいです。  
一話はじめます。

## 一話 学校

鈴「あの・・・どいてくれませんか・・・」

男子「はい！鈴様！」

鈴「・・・・・^v^」

「お前ら邪魔。俺の親友に迷惑かけてねーよな？」  
ビクウ・・・・・

男子「は・・・はい！海さまっ！」

海「それでいい。んで鈴平氣か？」

鈴「あ・・・うん海くん」

海「あと、俺がいなくなつても手え出すんじゃねーよ。なー」

男子「すみませーーーん！」

ペコー――――

海「明 これでいいだろ

明「うん兄さん」

鈴「・・・（怖かつた・・・^v^）

明「大丈夫？」

鈴「うん・・・」

キーンコーンカーンコーン キーンコーンカーンコーン

先生「授業を始める前に、転校生を紹介します。いらっしゃい」

ガラガラ・・・・・

先生「この子は、月詠 星夜くんよ」「星夜」「よろしくお願ひします」

ざわざわざわ・・・・・

「あの男子かつこいい」

「名前もかつこいいし・・・うふふ・・・」

「あの男子イケメンだ！鈴様が取られる——へへ」

先生「黙つてください！」

しーーーん

先生「では星夜くんは鈴ちゃんの隣よ」「

鈴「あ・・・・・あの・・・・」

星夜「よろしく。鈴ちゃんへへ

イライラ・・・・・

明「何・・・・このイヤーな殺氣は・・・・」

男子「転校生え・・・・鈴様には様をつけりよナア・・・・」

星夜「ちゃんでもいいと思つ」

男子「生意気だなオメエ・・・・」

先生「こりゃ。男子一転校生を鈴ちゃんの前でいじめない！嫌われるよ」

男子「（ガーネン）す・・・すみません鈴様！」

鈴「別にいいよ。席に着かないとダメだよ？」

男子「はあーーーい」

キーンゴーンカーンゴーン キーンゴーンカーンゴーン

わよーーならーー

帰り道

鈴「転校生かあ・・・」

明「かつこにいよねー あとこっちが通学路だつて 」

鈴「え・・・そこ私の通学路・・・」

明「げげっ！もしや鈴様隊の地域・・・」

（鈴様隊とは学校の男子が鈴を守るために作った隊のこと）

鈴「・・・やつぱり・・・><」

鈴様護衛隊「まじで・・・」

明「そこにいんのは、だれだつ！」

鈴様護衛隊「あ、明様・・・」

鈴「はうう・・・星夜くんの話しうかれたの・・・」

鈴様護衛隊「はい・・・すみません！」

明「いじめたら鈴が泣くよ・・・」

鈴「あ・・・星夜くんイジメないんだよ・・・」

鈴様護衛隊「イエス！仰せのままに

じろーーー

じろーーーー

じろーーーーー

明「（これは鈴も疲れるへへ・）」

続く(\*。\*)

## 一話 学校（後書き）

本当に適當な一つの作品となりました^ ^ ;  
でも一日一話ずつ最新します。  
詠んでくれている方。ありがとうございます\* ^  
^ \*

## 第一話 疑問（前書き）

ぐだぐだになりかけてます  
一話見ないと話読めません  
・  
・  
・  
・

## 第一話 疑問

次の日

「来ますて、うつ行け」

母親一言行記

通字路

（星石、へしゃく、）

金・あさか・・・・・

星夜が近く来て いた · · · ·

星夜・おにゆい鉢ちゃん

鈴木・おもて

鈴はとてもじやないが笑顔といえなくらい殺氣を感じた・・・(一)のままじや・・・星夜くんが・・・星夜くんが―――)

鈴「星夜くん あつちに行こう」

## 星夜一ホートのほいな」の霧匪氣

イライライライライライラ・・・・・・！！

そこにちょうど明の兄が来た。

海「よお転校生クン 間違つても明には手えだすなよー。」

星夜「だれですか？明つて人は」

メキメキイ・・・・・！

「今、呼び捨てしたよな。うん」

鈴あゝ明たすけて・・・」

一俺達の銓様にてをだすなあ！」

海「あ、怒りで我を忘れてた・・・・・」

バタン・・・・・

鈴「み・・・みんな・・・^v^」

星夜「大丈夫ですか？」

鈴「海さん・・・・次ぎやつたら明月にこまかう・・・」

悔「俺・・・明に「大嫌い！」ついわれるのかなあ・・・」

星夜「大丈夫ですよ。鈴ちゃんはそんなことしないです」

海「マジ? やつた—————」

鈴「ああ……星夜くん優しいなあ……」

明「鈴おっはよ——」

明「ん?」

鈴「ぼやーん……」

明「鈴……拓海のこと……」

その近くにいる男子

拓海「ん?なんか鈴に危険が……んなわけないか」

明「ひどいね……好きな人いなっていってたのに……！」

学校 休み時間

鈴「明」

明「何? ! 邪魔」

鈴「あう……拓う……」  
「へへへ」

拓海「なにしてるんだ! 明!」

明「た……拓海くん……」

鈴「ぐすん……明……いじわるう……」

拓海「明はひどい奴だ!俺の姉貴いじめて!」

明「あ……姉貴?」

拓海「つ・・・」

明「もしかして鈴が拓海くんの姉?」

鈴「ちがうの?ー!」

拓海「んなわけねーだろ。行こう鈴」

鈴「うん・・・」

そして明との楽しい日々は壊されていく・・・

キーンコーンカーンコーン キーンコーンカーンコーン

### 鈴の家

拓海「姉貴・・・マジやばかっただな・・・」

鈴「うん・・・バレるとこりだつた・・・」

（実はマジきょーだい。1にち誕生日が違うだけ。）

### 明の家 明の部屋

明「なにあれ・・・・・・」

・・・・・・・・・・

明「鈴なんて・・・」

R R R R R R R R

鈴「あーケータイがなつてる」

ガチャ・・・

鈴「もしもし?」

「ブス」

ツーツーツー

鈴「拓一なんか変な電話が・・・」

拓「今度は俺が出るよ。」

R R R R R R R

拓海「もしもし」

「つ・・・・・」

ツーツーツー

明「なんで拓海君がつ・・・・・」

鈴「あの声もしかして・・・・・明?」

二人は勘違いで仲間割れし

この溝は埋まらなくなるような事になる・・・

続く

おまけ

登場人物

名前 瀬木 拓海（異名）

年 鈴と同じ

優しく、とっても姉思い（鈴）

しかも意外と美形。

だが、とてつもなく強い。

名前 星夜

フルネームじゃなくてすみません

年 18才

美形。優しい。頭がいい。運動神経抜群の  
最強モテモテ男・・・

好きな人の名前を消しゴムの裏に書く事を

しじゅうじこ・・・

おまけ終わり（たまにオマケがあります。）

## 第一話 疑問（後書き）

変な文ですみません><  
でも読んでくれている方・・・  
感謝です(\*^▽^\*)

## 第三話 悲劇（前書き）

えーいきなり始まります。

ご注意ください。（あ

お恥ずかしい・・・壁――-\*）ひつじり・・・

顔文字・・・下手すぎ・・・（おい・・・

## 第二話 悲劇

次の日

拓海 ー おい！ 遅刻するぞ！」

# 鈴一今田は士・・・・「

卷之三

「今日に特別がな

鈴「お休み——！」

卷之三

ପ୍ରକାଶକ

シャカシャカシャカ・・・・

招海 早すぎ俺まだなんだけど

# 明の家

明「今日は特別の日・・・」

明「鈴をいじめる大チャンス・・・」

海明威

学校

キンコーンカーンコーン キーンコーンカーンコーン

先生「今日はと・・・

ガサガサ・・・

紙には「嘘ついた」と書いた紙があつた・・・

鈴「先生。」

先生「なんですか?」

鈴「明がこんな紙を・・・」

先生「明さん。家族に言いますからね。」

・・・・・・・・・・・・

明「いいですよ。ええどうだ。鈴は私から好きな人を奪つたからね」

みんな「え・・・・・・・・・・」

明「だつて拓海くんとトークしてるとこ見たし。」

みんな「うわ・・・あんな人だつたんだ・・・」

ざわざわざわざわ・・・・・

鈴「(明・・・卑怯・・・)」

鈴「黙つてー弟のここと悪くつなつー。」

女子「え・・・愛しの拓海様の姉・・・?」

明「嘘つき」

拓海「そつですが何?姉貴を虐める氣?」

明「え・・・・・・」

鈴「明。もう嘘ついた。あなたは「拓にきらわれた」の・・・

明「嘘・・・言・わな・・・い・で・よ・・あなたがじつと見てたのは・・・

明「嘘・・・言・わな・・・い・で・よ・・あなたがじつと見てたのは・・・

？」

拓「ひどい人に言つ義理はないよ？ね。姉さん……」

鈴「明。『めんね。』でも明の評判は確実に悪くなつたよ……」

明「あつそ……」

すたすた・・・・・

明「私帰るから。さよなら」

「この日明は氣ずいた思つ……  
自分の過ちに・・・・・・・・・・・・  
だからあえて罪償いに  
髪を切り性格も変えて名前も変えた……  
そして、転校した・・・・・・

一ヶ月後

鈴「星夜おはようへへ」

星夜「よひ・・・・」

そして、鈴は星夜と恋人になる決意をした……  
私が明の恋を壊したからせめてもの償いとして  
星夜に告白しよう。そして幸せになろうと……

続く

## 第三話 悲劇（後書き）

いやーもうやるやるねた切れなんで、  
おわりそудでーす

やばいので、次の小説の名前かんがえまーす  
次は多分イジメ小説でーす

理由（学校でイジメられてる人とかいるから、皆さんにその人の悲  
しみとか分かつてもらつたほうが、良い  
と思うので（え）

ほかのも・・・お楽しみに（マテ

## 最終話 恋鈴明（前書き）

四話で終わるみじかーーい話です・・・  
次の話は、イジメじゃなく、  
妖精とかでる、ファンタジーな話になります（勝手！  
題名は・・・「やよなら日々々ー」です（うわセンス無いへへ；

## 最終話 恋鈴明

鈴「ねえ・・・星夜？」

星夜「なんだ？」

鈴「私。。。星夜が好き・・・」

・・・・・

星夜「ごめん・・・無理なんだ・・・」

鈴「え・・・な・・・何で・・・」

星夜「もう少し・・・早く言つてくれたら・・・」

星夜「俺・・・明日引っ越しすんだよ・・・」

ズキン・・・

鈴「嘘だよね・・・嘘だよね・・・」

星夜「嘘じやないんだ・・・」

ひどいよ

私・・・私・・・

やつと素直になれたのに・・・

神様

神様なんて大嫌い・・・意地悪・・・

鈴「神様なんて・・・」

星夜「……ごめん……」

そして私の恋は幕を閉じた……  
結局……叶う事がない儂い恋だつたんだ……と

3年後……

ピーンポーン ピーンポーン

鈴「はーい」

がちや・・・・・

「久しふり・・・・・鈴ちゃん・・・・」

鈴「星夜くん・・・・・?」

星夜「そつだよ・・・・3年前の告白・・覚えてる?」

鈴「うん・・・・・」

星夜「あの時・・・・引つ越して後悔したんだ・・・・」

星夜「鈴ちゃんのこと好きだつたのに・・・・てね」

鈴「もしかして・・・・付き合つてくれるの?」

星夜「おひー」

神様ありがとつ・・・・・

私の恋は散ることなく・・・・・

無事に咲きました

私つて幸せものだなあ・・・

よかつた・・・

星夜や明・・・海にも念えて・・・

END

## 最終話 恋鈴明（後書き）

あーあぢしじよづもない結末・・・  
一日で終わる短い話だつたですねー

次の小説は一章が30話二章が30話三章が40話で

最終章が50話（長すぎだなおい・・・

全部で150話（三田坊主

物种多样性 (丰富度)

物种数

## おまけ 明

私は 有月 蓮華・・・  
でもこの名前は異名なんだ・・・  
私の本名はね・・・

狩野 明

それは前の学校に転校生が来たときだった・・・  
(恋鈴明2話と1話みてね)

鈴が拓海くんを・・・

そう思つたとき・・・胸が痛くなつたんだよ・・・?

でも・・・結局・・・ね・・・

兄さんには迷惑かけたし・・・親にも・・・

だけど今は違う・・・

前の時見たいには・・・もうならない

蓮華「うー」

香「なあに?」

この人は香。優しい姉さん  
だけど・・本当は親友なの・・・

私はあの事件で・・・

(3話をみてね)

でも、あの事件のおかげで新しい恋が芽生えたの・・・

鈴・・・・・?

鈴がどうなつてるか分からぬけど・・・

星夜と仲良くするんだよ

拓海くん・・・・

ごめんね・・・・

私はこの気持ちを隠し続ける・・・  
恋の事件だから・・・

蓮華「おはよう・・・連くん・・・」

連「早く眠氣消せよな・・・・」

この男の子は連。

私の好きな人・・・

女の子「連ー 行こう」

連「蓮華と行くからい」

女の子「イライライラ・・・」

蓮華「(正直・・・あの男子の気持ちが分かる・・・嫉妬・・・か

(一話参照)

こんな毎日を過ぐしている・・・  
意外と楽しいんだよ

でも鈴がないと・・・やっぱり寂しい・・・かな  
連「蓮華?どうした

蓮華「なんでもない」

この寂しさは鈴にまた逢えたとき・・・  
い一つぱ一言つてやるからね！

おまけ 明（後書き）

おまけでーす

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2318f/>

---

恋鈴明

2010年10月16日12時20分発行